

本協議会で行う事業は、どれも人の身体や心と接します。大変なことでもあります。人と接する事業である以上、利用者を不安や不快にさせてしまってはなりません。常に明るく、笑顔でいることを心がけています。

また、能力や技術の向上を図り、

**問3. 事業を行う上で、心がけていることはありますか？**



▲ヘルパー活動者とホームヘルパーの皆さん

ています。金銭的に困っている相談者へは、生活資金や子どもの教育資金として「生活福祉資金」の小口貸し付けを行い、求職中の相談者には、上部の組織と協議の上、就職先の紹介を行いました。相談していただいたことは、どんなことでも各関係機関へ協議の上、解決できるよう努めています。



▲介護技術研修会の様子

積極的な研修への参加や開催を行っています。時間や予算に余裕があれば町外の研修へ参加しますが、中には参加できない職員もいます。そこで、福島町内で介護に従事している方を対象に、年に3回「介護技術研修会」を開催し、専門的な知識やメンタルヘルス、高齢者への適切な対応方法等を学んでいます。町内にある複数の介護事業所の職員が集まるため、介護職員同士の情報交換や、交流の輪を広げる場としても活用できています。今年度は第1回研修会を7月に開催し、テキストを通して介護職員の法令について学んだほか、介護現場を題材とした映画の上映会を行いました。今後も「楽しく学べる」を重点に置き、10月と来年の2月、または3月に開催する予定です。

**問4. 事業を通して、印象深かったことは何ですか？**



▲訪問介護事業の利用者とホームヘルパー

歩くことが難しかった利用者が、訪問介護事業によって歩けるようになった事例があります。嬉しさからか表情が明るくなり、こちらも嬉しくなったのを覚えています。また、各事業内容について、利用者や家族の方へ事前に説明は行いますが、現場では説明以上に深いことを行います。事業終了後、利用者や家族の方に「ありがたうございました」と感謝の言葉をかけていただくと、とても心が温まり、やりがいを感じます。

**問5. 最後に、今後の目標を教えてください！**

残念なことに、町内では一昨年から2年連続で高齢者の孤独死が発生しています。近隣住民とのつながりが希薄化している都会でしか起こらないと思っていたことが、この町でも起こってしまいました。とてもショックでしたが、地域での声かけや見守り等をはじめとする近隣住民とのつながりの大切さを、改めて痛感させられました。

本協議会ではさまざまな事業を行っていますが、財政状況が厳しいゆえに、事務職員の採用を控えるなど、人員不足に陥っています。また、介護職員の人材不足も課題となっています。

特に、福島町は高齢化が著しく進んでいる町であり、町全体においても、介護職員が不足しているのが現状です。

本協議会としても、福祉の現場に携わる職員の処遇及び職場環境の改善を推進し、一人でも多くの町民の方に介護職を目指していただき、地域福祉の充実につながるよう願っています。